

アンケートのご意見まとめ

「町田市における生涯学習について」に関するアンケート項目について、頂いたご意見を紹介させていただきます。

Q1. あらゆる市民が学べる環境を整備するため、庁内においてそれぞれの部署が役割分担をしながら取組を行っています。(例えば、子ども生活部や学校教育部では子どもに関する取組、政策経営部や市民部では市民協働の推進を行うなど) 今後、生涯学習センターが重点的に行っていくべき”市民に向けた学習支援”とはどのようなことだと思いますか？

- ・全世代に向けた、生涯学習に関する情報センターのような役割が必要だと思います。小学生、中学生、高校生、大学生、若年層、成人層、高齢者層、それぞれにおける学びの場に関する情報(市各部署主催事業、高校や大学の公開講座、WEB講座)を発信することが大切だと考えています。現在、このような情報を統合して提供する機関はないと思います。生涯学習センターで様々な事業を実施することと情報提供センターの役割をすることで、その機能は高まると考えられます。
- ・市の多くの部署が役割分担しながら学習の取り組みを行っていくことはとても重要だと思います。すでに一部行っていると思いますが、生涯学習センターは、その入り口と出口の役割を担っていくのが良いかと思います。入口というのは、例えば英会話であれば本当に初歩のABCの段階の講座を開催して、そのあともっと伸ばしたいのであれば、既存グループの紹介であったり、自主グループを作ってもらうことの手助けをおこなう。出口というのは、既存の学習グループの中で地域還元できるような橋渡しを支援する事だと考えます。
- ・それぞれ部署が、横の連携を取り、生涯学習センターが中心となって、それぞれの情報を集約して、あらゆる世代の市民に対応する学習支援を行うべきだと思います。特に、生涯学習センターで学びを得た貴重な人材が、学校現場で活かしていないという現状があります。その人材を活かすべく、何かしらの手立てが必要だと考えます。
- ・他の分野では扱わないような自由な発想が生涯学習ならではと思います。
- ・センターは若年層にとっては高齢者の方々が集まる場所というイメージがあるようです。保育園や学校(小・中・高)との連携による多世代交流をとおして楽しさや気づきがあると、やりたいことが発見できて地域での活動につながるかもしれません。
- ・町田市の生涯学習については、まだ勉強中で回答することはできないのですが、考え方としては、生涯学習の理念をおさえることが必要で、全ての市民の学習権が保障されているかどうか、ポイントではないでしょうか。縦割りの取組にはそれぞれの目的がありますが、生涯学習の一番の目的は全ての人が豊かな人生を送ることができるようにということだと思いますので、視点が違うことが出発点だと感じています。

- ・ある特定の人たちに偏ることなく、様々な企画を用意しながら皆さんの多様なニーズをくみ取った形で行われると良いと思います。そのためにアンケートを行うなど、オンデマンドで運営されるなど考えられると思います。

Q 2. 第3期答申にあるとおり、学びを地域課題の解決や市民活動へ結び付けていくことは重要です。しかし、【地域で活動する人材】の発掘・育成については市民協働推進課がすでに成果を挙げていることから、地域還元のしくみにおける生涯学習行政の立ち位置を模索する必要があります。

生涯学習の立ち位置から、どのような人材を育成したら良いと思いますか？

- ・生涯学習の講師や地域資源をコーディネートできる人材を育てる必要があると思います。また、地域外の人材であっても、その地域に関心をもって、活動してくれる方を発掘することも必要だと思えます。
- ・生涯学習講座の受講生やその後の活動を支援、コーディネートするような人・団体。市民が同じ市民の立場で支えることで、活動への敷居が低くなるように思います。
- ・センターのボランティアとして、学習情報の収集や提供、イベント等の企画や補助等、センターと協働する人材育成。市民目線での事業につながるのでは。
- ・既存のグループに新しい人が入るのは、なかなか難しい部分がある。従来のグループに新しい人が入っていき、大きくなって分かれて発展していくことが理想だとも思う。新しいグループを作る、地域課題に取り組む、地域還元する、新しい人が入るなど生涯学習の観点から得点化して生涯学習に取り組むグループを活性化させる仕組みを作っても面白いのではないか。ただ、一人の人材を育成するというのと少し違うかと思えます。
- ・地域還元のしくみにおける生涯学習行政の立ち位置について、生涯学習センターで学んだ人材が、今の学校現場の状況や、小学生、中学生について、もっと深く知ることが大切です。こんな言い方だと子どもたちにはうまく伝わりやすいとか、こんなやり方はNGとか、今ドキは、このツールを使ったほうが理解を得やすいなど、そこを知らないまま学校と繋げてもなかなかうまくいきません。なので、「今の学校現場についての講座」を、学校をよく知る方々（校長先生など）に開いていただき、一般の方々にも学校の今について知っていただく場を作る必要があると思います。
- ・学校現場に必要な人材、具体的なニーズに沿った一定のレベルを満たした人材。例えば、ICT教育のサポートとしてパソコンの基礎的な使い方の講師、教室内で先生の進める授業のパソコン技術的な個別サポート的なイメージの人材。一例としては、Google classroomの技術的サポート日本語入力サポートネットワークのインフラサポート等が挙げられる。
- ・月並みですが、郷土愛と生涯あらゆる場面で学ぶことを楽しめる人材が育成されると良いと思います。

Q3. 第3期答申においては、生涯学習の意義を「学習の社会化」や「まちの未来をつくる」等、行政の視点から整理しています。市民目線で考えたときに、生涯学習行政に求められることは何だと思えますか？

- ・【場】地域にある身近な学校の空き教室等。地域に対する愛着が、地域活動へつながる可能性がある。【機会】オンラインでの受講やSNS配信等、後日見られる機会があるといろいろな属性の人の学びの機会が広がる。【情報】地域情報のプラットフォームになるネット上のサイト。学び、地域の情報、サークルやイベント、ボランティア活動等の幅広い情報の集約と発信。そこに行くと楽しい、ばらばらな情報が手に入り、そこで事が済むようなしくみをつくる役割を。講座の種類、数など十分充実していると思うのですが。センターにもわくわく感のある名称があると距離感が縮まるかもしれません。
- ・市民目線から考えると、生涯を通じて学ぶ機会やその情報を提供してもらいたいことが求められると思えます。また、学んだことを活かす場を提供していくことも求められると思えます。
- ・生涯学習センターとそのほかの庁内の取組によって活動している人材を繋げるような役割
- ・あらゆる世代の方々が、自分に合った学びが選べるように、豊富なコンテンツを用意する必要があると思えます。赤ちゃんにとっても、そして、幼児、小中高生、大学生、働き盛り世代、子育て真っ最中の親、専業主婦、高齢者までが、楽しく学べる場所やメニューがあれば、生活がより豊かなものになると思えます。生涯学習行政としては、それらをしっかり市民の皆さんにお知らせできるようなプロモーションを考え、また、町田で子育てしたい！町田でずっと暮らしたい！と思えるような魅力的なコンテンツを揃えていくような努力をするべきだと思えます。
- ・ある特定の人たちに偏ることなく、様々な企画を用意しながら皆さんの多様なニーズをくみ取った形で行われると良いと思えます。

Q4. その他ご意見があればご回答ください。

- ・生涯学習は市民が生涯にわたって、様々なことに関心をもち、学び、それを社会でいかすことだと考えています。個人がコミュニティに参画できる仕組みを作り、民主社会を発展させることが重要だと思えます。しかし、ICT環境が整い、オンラインでの教育が発展してきているので、リアルとオンラインの切り分けをしていくことも必要と感じています。

- 町田市の地域情報サイトはすでにありますが、あのサイトの有効活用はできないのでしょうか？
- 市民協働推進課は一方で町内会・自治会を所管していますが、市内町内会・自治会の加入率は順調に減少しています。でも高い加入率を維持している所があるので、うまくいっているところから学ぶような協働開催の講座はどうでしょう。